

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 南ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395600022-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395600022-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年 2月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用様が持っておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設し今年で8年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する一画に事業所がある。木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」ことを職員は共有しながら、日々の支援に努めている。近隣の市や町の情報を得て、花見や雛人形の展示など季節の催しに出かけたり、買い物や日々の散歩を通して挨拶を交わしたりして地域とのつながりを大切にしている。入居者同士で交友関係ができ、お喋りや部屋への行き来を楽しんでいる。入居者は広く明るいリビングで、洗濯物たみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。	事業所の理念を目に付きやすい玄関ホール、事務所、休憩室に掲示している。毎日の申し送りや会議で確認している。また、ケアの中で職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深め実践に活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を入手したり、清掃活動を行っている。また、日常的に散歩や買い物に出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、積極的に地域との関わりを深めている。	地域の情報収集や協力体制の拡張など、足踏み状態が感じられる。ボランティアの受け入れだけでなく、施設のPRや情報提供、開放事業など地域へ向けた新たなアプローチを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をしてもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。	入居者家族や区長、民生委員、行政の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所の行事報告、研修報告、地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録されカンファレンスで協議し、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の毎月の訪問時、更新申請代行時に情報ももらい、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。	推進会議の資料等の配布や代行申請、更新手続きの折に、市役所に出向き行政担当者に指導や助言を得ている。また、市主催の研修会に積極的に参加したり、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。	身体拘束についての研修や事例検討を行い意識を高め、スピーチロックや束縛感のない環境やケアに努めている。安全性に配慮し玄関を施錠している。独りでの外出を希望する入居者には、見守りながら支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握している。家族からは面会や行事等の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。運営推進会議で家族に情報を提供している。	より多くの意見を収集しケアに反映できるように、意見箱の設置や写真やコメントを載せた便りや食事の献立など積極的に家族に提供し、安心感を届けるような工夫を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。	日常の業務の中や日々のミーティングで提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員との個人面談もあり、要望や意見、悩みなどを聞く機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。外食やお墓参りなど馴染みの場所へ家族と一緒に出かけたりしている。プランターの花の世話、散歩で摘んだ花を生ける、食後の食器洗い、洗濯物をたたんだりなど培った経験を生活の中で活かし、これまでの経験や馴染みの人、場所との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。	傾聴の姿勢を基本として、日常の入居者との関わりや会話、表情などから読み取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。思いの表出の少ない入居者については表情やしぐさから把握する様に努めている。職員間で日常的に情報交換してケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を観察し、家族の意向等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。3か月に1回の定期見直しや随時見直しをし、家族に内容を伝えている。どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行き意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。	入居時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。内科、精神科の受診は月に1度、主治医による診療を受けている。週1回訪問看護の訪問を受けている。皮膚科の往診も有り、受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に家族に説明をし同意を得ている。ターミナルの経験もある。少しでも入居者や職員の心理的な負担を緩和するために研修会を行い、医師との連携、ケアの対応、職員のメンタルケア、入居者や家族への具体的な支援などを再確認し、チームで支援に取り組むように努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。消防署の立会いの下に、訓練を実施し講評も得ている。水、食品等の備蓄品は3日分用意している。地域との協力体制は模索中である。	運営推進会議等で、避難時の協力要請や避難場所提供など地域との協力体制について具体的な話し合いをし、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。備蓄品のリスト化や整備、整頓の工夫も望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。	誇りやプライバシーを損ねないよう声かけを行ったり、その人の良さを知るように心がけている。日々のケアや申し送りの中で相互注意をし、入居者の人格や誇りを損なわないように取り組んでいる。	傾聴の姿勢を基本として、声の高さ、口調などに留意して声かけは耳元で行などに心掛ける事を願いたい。トイレのカーテンは気配や臭い、音などを含めプライバシーを守りたい場所なので改良検討を願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難しいため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。	業者委託により、季節に合った献立を基にした副食が届けられている。新聞広告を見て安価の食材を職員と一緒に買いに出かける事もある。入居者の保有能力に合わせ、主食と汁物の調理や片付けなどを行っている。月1回外食レクなどの支援もしている。職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々に用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は毎晩消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声をかけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。	座位で排泄できるような支援に心がけ、一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、きめ細かなケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入ってもらえるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら多種の香りの入浴剤や季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。	二日に一度、午前の時間帯で入浴し、時間、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。午後の時間に足浴の支援も行われている。入浴を拒む方は声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促したり、別の日に変えたりしている。菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行ったり、近所の花を観に散歩に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。	天候の良い日には職員と一緒に散歩を楽しんでいる。花を摘んでホームに生けたりして楽しんでいる。季節ごとの花見、食材やおやつ、買い物、外食も楽しみとなっている。家族と一緒に墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為に頂かず、職員との買い出しに行っていた際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。	明るい日差しが降り注ぐ食堂兼居間は、ワンフロアの共用スペースとなっており、入居者の動きや気配がよく見渡せる。居間のソファにゆっくり腰を掛けテレビを見たり、新聞や雑誌を読んで過ごしている。季節の作品や行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。	自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方が多く、迷っても自分で居室に戻るように、居室の戸に個別の切り絵やのれんを付け判り易くしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 北ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用様が持っておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年 2月26日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設し今年で8年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する一画に事業所がある。木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」ことを職員は共有しながら、日々の支援に努めている。近隣の市や町の情報を得て、花見や雛人形の展示など季節の催しに出かけたり、買い物や日々の散歩を通して挨拶を交わしたりして地域とのつながりを大切にしている。入居者同士で交友関係ができ、お喋りや部屋への行き来を楽しんでいる。入居者は広く明るいリビングで、洗濯物たみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をしてもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をしてもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 平成28年 2月26日	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の毎月の訪問時、更新申請代行時に情報をもらい、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行い意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難しいため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々な用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は毎晩消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声をかけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入ってもらえるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら多種の香りの入浴剤や季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行ったり、近所の花を観に散歩に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為に頂かず、職員との買い出しに行っていた際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方が多く、迷っても自分で居室に戻れるように、居室の戸に個別の切り絵やのれんを付け判り易くしている。		